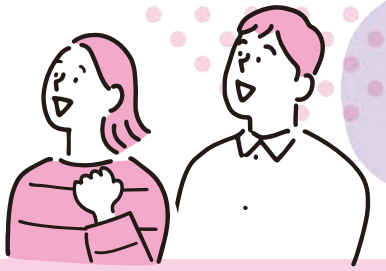
てんかんと共に生きるあなたへ ③

妊娠・出産のための てんかんのマネジメント

てんかんの主治医の指示に従い、治療を継続しましょう。

発作を悪化させないために、妊娠前から出産後も服薬を継続することが大切です。
妊娠中の発作は、患者さんの転倒の原因となるだけでなく、
おなかの赤ちゃんにもストレスがかかる可能性があります。
妊娠中に発作を起こさないためには、
妊娠前からの発作コントロールが重要です。
赤ちゃんへのお薬の影響を最小限とし、
妊娠中や出産後に発作をできるだけ起こさないために
てんかんのお薬の種類や飲む量を調整することがあります。



監修 原 恵子 先生（原クリニック 院長）

原先生からのメッセージ

子どもを持ちたいと思った時、赤ちゃんを無事に出産できるのか心配になる方は多いでしょう。特に妊娠中や乳幼児を育てている期間は、ご自身の安全はそのまま赤ちゃんの安全につながります。規則正しいお薬の内服により、発作を悪化させるリスクを減らし、ご自身と赤ちゃんの安全を守りましょう。妊娠したいと思った時に、お薬の影響が気になる方は多いと思いますが、適度な運動、肥満の解消、禁煙なども、お薬の調整と同様に、元気な赤ちゃんを産むために重要なことの一つです。また、お酒は妊娠すると飲んではいけないため、妊娠前から控え目にしましょう。
産婦人科医はご本人と赤ちゃんの安全を最優先に考えて診療しています。産婦人科医が出産について十分な準備や適切な判断をするためには、てんかんについて十分な診療情報が必要です。産婦人科受診時には必ずてんかんについてお伝えいただき、てんかんの主治医から産婦人科への診療情報提供を積極的に依頼しましょう。
このリーフレットをきっかけとして正しい知識を得ることで、てんかんの方にも安心して、子どもを持つことを人生設計の選択肢に入れていただければ幸いです。

てんかんinfo
(https://www.tenkan.info/about/women/)

てんかん患者さん向けに、てんかんや日常の困りごとに対する有益な情報の提供を目的としたWebサイトです。女性のてんかんについてさらに詳細な情報を掲載しております。

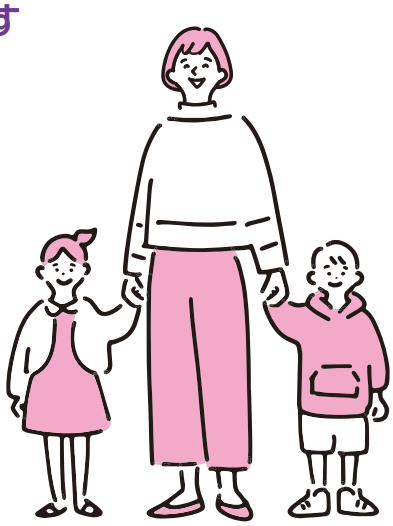
公益社団法人 日本てんかん協会（波の会）
(https://www.jea-net.jp/)

てんかんのある人とその家族が安心して暮らすことを応援する「相談ダイヤル（無料）」を開設しています。てんかんのことで困ったら、お気軽にお電話してください。

ユーシービージャパン株式会社

■ 多くの患者さんは問題なく妊娠・出産をしています

お薬を服用していないてんかん患者さんから生まれた赤ちゃんの大きな先天性疾患の出現率は、てんかんのない場合とほぼ同じで約２～3%です。妊娠中にてんかんのお薬を服用したてんかん患者さんから生まれた赤ちゃんの大きな先天性疾患の出現率についてやや高めに出るという報告がありましたが、近年、赤ちゃんへの影響の少ないお薬が使用可能となりました。さらにどういうお薬がより若い女性の方に適しているのか、医学の進歩により、多くのことが明らかになってきています。
多くの患者さんは問題なく妊娠・出産をしています。
肥満、アルコール摂取、喫煙なども大きな先天性疾患のリスクとなるため、普段から生活習慣を整えておきましょう。



■ 妊娠管理・出産施設について

てんかんがあっても、基本的に通常の妊娠管理・出産が可能です。妊娠判明後は、速やかにてんかんの主治医と産婦人科医に伝えましょう。てんかんの主治医から産婦人科の担当医へ紹介状（診療情報提供書）を書いてもらった上で、産婦人科医と相談し、出産施設を選択しましょう。多くの場合は一般の産科医療機関での妊娠管理・分娩が可能ですが、周産期母子医療センターでの妊娠管理・分娩が必要な場合もあります。また紹介状を書いてもらうことで、産婦人科の担当医がてんかんの主治医に適切な方法で連絡がとれるようにしておくとよいでしょう。

妊娠と薬情報センター
(https://www.ncchd.go.jp/kusuri/)

妊娠中や妊娠を希望される女性で、妊娠・授乳中の薬物治療に関して不安を持つ方のご相談に対応しています。
全国47都道府県の拠点病院に「妊娠と薬外来」を設置しており、各地域の相談外来で相談を受けていただくことができます。

医療関係者の皆様へ

ユーシービージャパン株式会社の製品情報およびてんかんの疾患情報につきましては、UCBCares® てんかんからご確認ください。

UCBCares®てんかん
(https://hcp.ucbcares.jp/epilepsy)

本資材「てんかんと共に生きるあなたへ③」のPDF はこちらから。

JP-DA-2300320
2023年12月作成